

所 属・職 位	医学部医学科医療倫理学講座・教授	
氏 名	今井 浩光 (Imai Hiromitsu)	
取 得 学 位	博士 (医学)、大分大学、2008年9月	
SDGs 目標	  	

研 究 分 野	医療倫理学、臨床薬理学、心身医学
研究キーワード	臨床研究のインフォームド・コンセント、薬理遺伝学、薬物と労働災害
研 究 内 容	●臨床研究におけるインフォームド・コンセントのあり方に関する研究 臨床研究は患者や健康人が被験者として参加することで成立し、その際にインフォームド・コンセントを経る。この重要なプロセスは個々の研究者と被験者により行われ、外部からの確認が困難であり、質の保証がなされにくい。本研究では研究者と被験者の間で行われる研究についてのコミュニケーションを多面的に分析し、倫理的に望ましいコミュニケーションのあり方、それを担保する方策について考察することを目的とする。 ●薬物動態や薬理作用に及ぼす因子の研究 薬物動態や薬効を修飾する内的及び外的因子を評価し、患者個々に最適な薬物投与法を提案することを目的とする。具体的には薬物代謝酵素、薬物トランスポーターや薬物受容体の遺伝的多型による影響や食品による薬理作用の変化を検討する。(論文1, 2, 3) ●薬物と労働災害の影響に関する研究 日本の労働災害は労働災害防止計画により対策が講じられているが、死傷者数減少の目標達成が困難な状況である。これには様々な因子が関与していると思われるが、労働人口が生活習慣病を始めとする医薬品使用が多い年齢層に一致しており医薬品による作業能力への影響が労働災害の因子ではないかという仮説を設定して、これを検証する研究を進めている。
研 究 業 績・アピールポイント	医療倫理、薬物、人と社会のコミュニケーションという軸から、実際に社会で問題となることの分析と解決のための方策を社会に実装することを目標として、領域横断的な研究の展開を目指している。 ●論文 2020年、The μ-opioid receptor gene polymorphism 118A>G weakens the pharmacological action of buprenorphine. <i>Int J Clin Pharmacol Ther.</i> 58: 626-633. 2019年、No Effect of Digoxin on Rosuvastatin Pharmacokinetics in Healthy Subjects: Utility of Oita Combination for Clinical Drug-Drug Interaction Study. <i>Clin Transl Sci.</i> 12: 513-518. 2016年、The pharmacokinetic exposure to fexofenadine is volume-dependently reduced in healthy subjects following oral administration with apple juice. <i>Clin Transl Sci.</i> 9: 201-206.